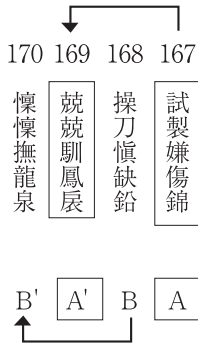




前節(21)の末尾2句に続き、本節の先頭2句もきわめて難解とされる。ここでは清藤鶴美著『菅家の文華』(大宰府天満宮文化研究所刊)を参考に考察してみる。



第167句と169句(以下 A グループという)、168句と170句(以下 B グループ)とは、互文(注)の形式を取り、A と B とでそれぞれまとまった意味となる。

〔注〕互文…ふたつの句または文で、たがいに意味を補い合つて完全な文章にする表現法。「天長地久」(天は長く地は久し)といつて、「天地長久」(天地は長く久しい)という意味になる類。

167句の「製」「錦」は169句の「鳳辰」と縁語をなし、また168句の「刀」「鉛」と170句の「龍泉」とは同じく縁語を為す。そして「鳳辰」・「龍泉」ともに、間接的に天子を指す。さらに「鉛刀」は一に鈍刀のこともいふので、自分の鈍才のために大事な国政に失策をきたさぬよう慎重を期するという意味をも含んでいる。

したがって、意識をすると、Aグループは「わたしはひたすら至尊の恩徳をささげつけないようにと気を配り」、